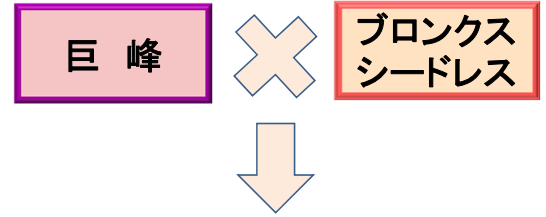


新しい大阪ブドウ品種の育成

食の安全研究部 園芸グループ

■技術の概要

- およそ40年前に当研究所が交配した、種なしで非常に甘くておいしい品種
- 味が良い大阪オリジナルブランドを求める消費者ニーズの高まりを背景に、平成26年2月13日に品種登録出願



■新しいブドウ品種の特性

糖度が高く食味のよい、甘い香りの皮離れ良好の中粒系種なしブドウ

- 果房重は300～350g、果粒重は6～7gほどの中粒系のブドウ
- 果房全体は淡い赤い色、赤から黄色のグラデーションも楽しめる
- 巨峰とブロンクスシードレスとの交配による欧米雑種
- 雄ずい反転性(雄性不稔)のため種なし(写真2)
- ジベレリン処理によって商品性の高い果房
- 成熟期は8月中旬、順調に成熟すれば盆前出荷も可能

■想定される用途

- 大阪の直売所でしか購入できないオリジナルブドウとしての販売
- 独特の色味を活かした販売

今後、関係団体との協力により、栽培マニュアルを作り普及を進めていく

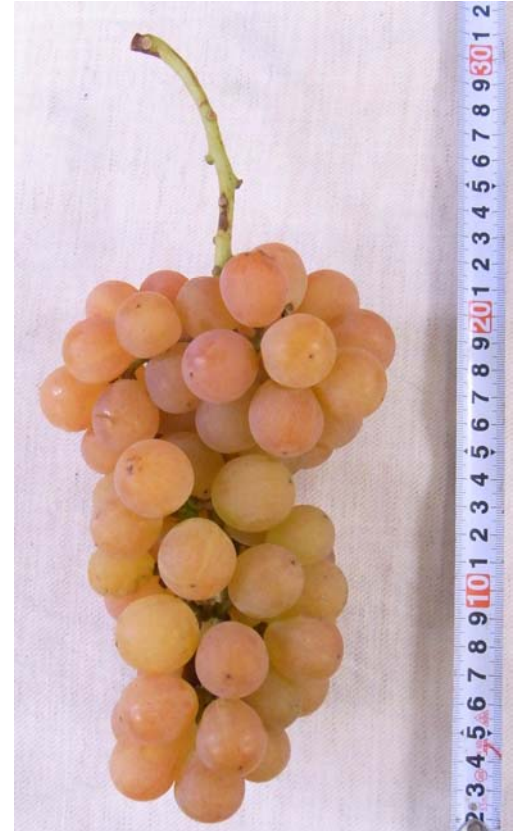


写真1 新品种の果実



写真3 新品种がたわわに実る立ち木姿



写真2 新品种の花

新しい大阪ブドウ品種の育成

○三輪由佳・磯部武志・林部寿美雄・古川 真※・細見彰洋（食の安全研究部）
（※ 現 経営企画室）

1. 目的

大阪府は全国第7位の収穫量（4,790t H23年度）を誇る日本有数のブドウ産地である。

金剛・生駒山麓に広がる柏原市、羽曳野市、太子町のほか、交野市や大阪狭山市などで多く栽培されている。品種はデラウェアが全体の約85%を占めているが、近年では消費者ニーズの強い大粒系ブドウなどの栽培が増加している。このため過去に育成したブドウを改めて評価し、大阪オリジナルブランドとして、生産振興を図っていくことができるよう品質登録出願を行った。

2. 交配から品種登録に至るまで

食味の良い種なし早生ブドウ品種の育成を目標として、昭和48年に巨峰とブロンクスシードレスの交配で得た種子の中から、樹の生育および果実について昭和54年から平成2年にかけて調査し、本品種を選抜した。しかし、当時は栽培に必須である植物生育調節剤（ジベレリン）の登録拡大が見込めないことから出願は見送りとなったが、その後も、府内の栽培農家において適応性の評価を継続してきた。

その結果、本品種は直売用ブドウとしての評価が高いことが確認され、農業者や普及機関から大阪オリジナル品種として登録の要望が寄せられていた。また、現在では品種毎のジベレリンの登録拡大が不要となり、平成26年2月13日に品種登録出願を行った。

3. 育成したブドウ（系統番号48602）の特性

果皮は全体が淡い赤い色合いに包まれ、赤～黄のグラデーションを見せる（写真1、2）。皮離れは良く、果汁は巨峰より糖酸比が高く（糖度20°、酸度0.5%程度）、芳醇な甘い香りに特徴があって、食味が大変優れる。

成熟期は8月中旬（露地）で、順調に成熟すれば盆前出荷も可能である。ジベレリン処理によって房の重さは300～350g、果粒の重さは6～7gとなる中粒系ブドウである。雄ずい反転性のため無核である（写真3）。

今後、認定機関の審査を経て、品種名が公表され、正式に登録される見込みで、当研究所では果実特性や生育調査に基づき、栽培指針を作成し、大阪府や関係団体とともにこのブドウの普及を図っていく。



写真1 系統番号48602



写真2 立ち木姿



写真3 開花時の様子

キーワード、ブドウ、新品種